

福滋 県境

鉄道遺産 回廊

南越前
敦賀
長浜

記憶の旅へ

今も息づく、近代化遺産を巡る旅。

福滋県境 鉄道遺産回廊とは

古くから宿場町や港町として栄え、交通の要所として発展してきた滋賀県 長浜市と福井県 敦賀市、南越前町 今庄。明治維新を経て、近代化への道を歩み始めた日本のなかで、3市町は鉄道で結ばれ、人と物資を運び、文化や経済の成長を支えてきました。

長浜は、日本海と太平洋を結ぶ水陸交通のターミナルとして敦賀は、陸運と海運を結ぶ鉄道と港のまちとして今庄は、峠越えの樞も鉄道基地として――

福井県と滋賀県にまたがる旧北陸線のエリアには、今も当時の歴史を偲ぶことができる鉄道遺産を中心とした貴重な近代化遺産が数多く残っています。



長浜市・敦賀市・南越前町近代化遺産マップ

<p>F-6 県指定有形鉄道記念物</p> <p>1 旧長浜駅舎</p> <p>現存する日本最古の駅舎。敦賀への基点駅として、また長浜―大津間の鉄道連絡船の接続駅として、明治15年に建築された2階建ての洋風駅舎で鉄道創業時の状況を今に伝えている。現在は鉄道資料館として公開されている。</p> 	<p>F-8</p> <p>2 D51形793号蒸気機関車</p> <p>昭和17年製造。北陸線をはじめ、東北・東海道・中央の各線、昭和45年まで運行。屋外に保存されていたが、平成15年に北陸電力記念館の開館にあわせて同館内に展示された。</p> 	<p>F-8</p> <p>3 扁額「萬世永頼」</p> <p>旧北陸線柳ヶ瀬トンネル東口に掲げられていた石額。伊藤博文が揮毫し、この鉄道が世のために働いてくれることを、いつまでも長く頼りますという意味。</p> 
<p>F-8</p> <p>4 扁額「永世無窮」</p> <p>旧北陸線栗原トンネルの北口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、この鉄道が役立つことを願うという意味。</p> 	<p>F-8</p> <p>5 扁額「興國成休」</p> <p>旧北陸線栗原トンネル南口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、同盟国がごとく盛んになることを願うという意味。</p> 	<p>F-8</p> <p>6 扁額「功和千時」</p> <p>旧北陸線山中トンネルの南口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、事業の完成は時代の要請にあっていう意味。</p> 
<p>F-8</p> <p>7 扁額「徳垂後裔」</p> <p>旧北陸線山中トンネルの北口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、この鉄道を完成させた徳は子々孫々まで残るという意味。</p> 	<p>F-8 県指定有形鉄道記念物</p> <p>8 旧長浜駅29号分岐器ポイント部</p> <p>明治13年に長浜―敦賀間の鉄道建設のため、英国キャメル社の製品を輸入し、鉄道局神戸工場部品を製作、組み立てて敷設された。現存する日本最古のポイント部であり、主要な鉄道部品が外国製であった時代を語る遺産。</p> 	<p>F-8 国指定名勝</p> <p>9 慶雲館</p> <p>明治20年、明治天皇の京都市幸啓の帰途、鉄道連絡船から鉄道へ乗り換える立ち寄り処として、長浜港と長浜駅の間に建設した迎賓館。豪商浅見又蔵が私財を投じたもので、命名は伊藤博文と伝わる。庭園は近代日本庭園の先覚者と呼ばれた七代目小川治兵衛の作庭で、国の名勝となっている。</p> 
<p>F-8</p> <p>10 北国街道安藤家</p> <p>安藤家は、江戸時代長浜の自治を委ねる十人衆の一家として、長浜町の発展に力を尽くした。建物は明治38年頃に建てられ、北大路魯山人が手掛けた、篆刻看板や障子に天井絵などの装飾美でも知られている。また、「古翠園」と名付けられた庭園は、巨石をあしらった池泉回遊式庭園で、四季折々の風情を楽しめる。</p> 	<p>F-8 国登録有形文化財</p> <p>11 黒壁ガラス館</p> <p>明治33年に第百三十国立銀行として建てられた本造洋館。平成元年から国内外のガラス製品を扱うガラスショップとしてオープンし、人気観光スポット「黒壁スクエア」のシンボリック的存在。</p> 	<p>E-6 国登録有形文化財</p> <p>12 きのもと交遊館</p> <p>旧北銀行の建物を改築し、地域の活性化と地域の人々の交流、文化の発信基地としてきた施設で展示会や音楽会などを開催。</p> 
<p>E-5</p> <p>13 中ノ郷駅跡</p> <p>旧北陸線中ノ郷駅の跡。柳ヶ瀬越えのため、補機を付け替えるため、すべての車両が停車し、賑わったが、北陸線の付け替えにより、昭和39年廃駅となった。</p> 	<p>D-4</p> <p>14 柳ヶ瀬トンネル</p> <p>長浜―敦賀間の県境にまたがるトンネル。明治17年の完成当時、国内最長の1.352m。日本人技術者のみで建設され、難工事のため、完成までに4年の歳月を要した。現役トンネルでは国内で2番目に古い。</p> 	<p>D-4 市指定有形文化財</p> <p>15 小刀根トンネル</p> <p>長浜―敦賀間にある明治14年竣工の現存する日本最古の鉄道トンネル。日本で最も量産されたD51形蒸気機関車はこのトンネルのサイズに合わせて作られたといわれている。日本人技術者のみによる工事では京都～大津間に次いで2番目。</p> 
<p>C-4</p> <p>16 疋田駅跡</p> <p>疋田第2会館の敷地にプラットホームの一部が残されている。</p> 	<p>C-3</p> <p>17 眼鏡橋</p> <p>明治14年竣工。旧北陸線草創期の鉄道遺産。市街地を流れる水路を列車が渡るために建設された。当時の鉄道建築の技術を知る遺産である。</p> 	<p>C-3</p> <p>18 C58形212号蒸気機関車</p> <p>昭和46年まで小浜線で活躍していたC58形蒸気機関車が敦賀市内の本町第3公園に展示されている。</p> 

<p>C-3 国指定重要文化財</p> <p>19 旧大和田銀行</p> <p>敦賀港の国際港への転身に貢献した大和田荘により建設された。この銀行設立により、敦賀港の中小零細商人らが救われ、敦賀港は開港外貿易港、外国貿易港に指定された。現在は歴史資料館として公開されている。</p> 	<p>C-3</p> <p>20 敦賀鉄道資料館(旧敦賀港駅舎)</p> <p>日本とヨーロッパをつなぐ欧亜国際連絡列車の発着駅であった敦賀港駅舎を再現。敦賀の鉄道に関する資料や模型などを展示している。</p> 	<p>C-3</p> <p>21 欧亜国際連絡列車切符</p> <p>明治45年に運行開始となった欧亜国際連絡列車の切符。この切符により、東京から敦賀、ウラジオストクを経由してベルリンまで行くことができた。</p> 	<p>C-3</p> <p>22 人道の港敦賀ムゼウム</p> <p>大正9年に受け入れたポーランド孤児、昭和15年に杉原千蔵が発給した「命のビザ」を持ったユダヤ人難民が敦賀に上陸した際のエピソードや当時の市民の証言などを展示している。</p> 	<p>C-3 国登録有形文化財</p> <p>23 敦賀赤レンガ倉庫(旧紐育スタンダード石油倉庫)</p> <p>敦賀港が明治32年に国際港に指定され、アメリカからの石油の直輸入を開始した。その貯蔵庫。明治38年竣工。現在は鉄道ジオラマカフェ等に活用されている。</p> 	<p>C-3</p> <p>24 旧敦賀港駅線路</p> <p>明治時代につくられた敦賀駅から敦賀港駅への線路。かつて旅客・貨物列車が走っていたが、貨物量の減少により、現在は廃線となった。</p> 
<p>C-3 市指定有形文化財</p> <p>25 ランプ小屋</p> <p>明治15年に建てられ、列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管する油庫。旧長浜駅舎と並び現存する鉄道建築のひとつ。</p> 	<p>B-1 国登録有形文化財</p> <p>26 立石岬灯台</p> <p>明治14年、日本人技師の手で造られた洋式灯台。そのレトロなたたずまいは、国際港敦賀の歴史を象徴している。</p> 	<p>C-3 国登録有形文化財</p> <p>27 檜曲トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治26年竣工。旧北陸線トンネル群の中では最も位置しているトンネルであり、峠越えのために掘られたトンネル群の出入り口として、内壁、ポータルがすべてレンガ積みという特別な意匠が施されている。</p> 	<p>C-2</p> <p>28 栗原築堤</p> <p>敦賀―今庄間にある旧北陸線の線路跡。緩やかなカーブが特徴的であり、旧北陸線の線路跡を伺い知ることができる。現在は生活道路として活用されている。</p> 	<p>C-2 国登録有形文化財</p> <p>29 栗原トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治29年竣工。南北のポータルに通信大臣(元首相)の黒田清隆が揮毫した扁額「興國成休」「永世無窮」が掲げられていたトンネル。</p> 	<p>C-2 国登録有形文化財</p> <p>30 鮎ヶ谷トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治28年竣工。旧北陸線トンネル群の中で最古となる長さ64mのトンネル。トンネルの施行者は鉄道・トンネル建設の実績がなかった地元業者であったが、この施行により資金と技術を手に入れたといわれる。</p> 
<p>C-2 国登録有形文化財</p> <p>31 首路地谷トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治28年竣工。トンネル背面に砂防ダムが設けられているトンネル。</p> 	<p>C-2</p> <p>32 杉津駅跡(北陸自動車道杉津PA上り)</p> <p>当時「北陸線屈指の車窓風景」と車内アナウンスされたほどの景勝地。かつて大正トンネルのトンネルで通過する際にもその絶景に見惚れたといわれている。</p> 	<p>C-2 国登録有形文化財</p> <p>33 第一観音寺トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治27年竣工。地元材料を用いて低予算で施工されたトンネル。</p> 	<p>C-2 国登録有形文化財</p> <p>34 第二観音寺トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治28年竣工。トンネル内部には、通信用架線跡やコンクリート等が遺されている。</p> 	<p>C-1 国登録有形文化財</p> <p>35 曲谷トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治28年竣工。石やレンガの積み方が丁寧かつ積造的で、官給品の煉瓦が使われているトンネル。</p> 	<p>C-1 国登録有形文化財</p> <p>36 芦谷トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治27年竣工。官給の載置された材料によりできたトンネル。</p> 
<p>C-1 国登録有形文化財</p> <p>37 伊良谷トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治28年竣工。檜曲・栗原・山中トンネルと同じ意匠に整えられたトンネル。</p> 	<p>C-1 国登録有形文化財</p> <p>38 山中トンネル</p> <p>敦賀―今庄間にあり明治29年に竣工。開通当時、通信大臣「黒田清隆」が揮毫した扁額「徳垂後裔」と「功和千時」が掲げられたトンネル。旧北陸線(敦賀―今庄間)で最長となるトンネル。岩盤の堅さや漏水の影響を受けた難工事の末、3年かけて造られた。</p> 	<p>C-1</p> <p>39 行き止まりトンネル</p> <p>山中スイッチバックの折り返し線の延伸トンネルであり、輸送量の多い車両が待避できるように掘られたトンネル。</p> 	<p>C-1</p> <p>40 山中信号所跡</p> <p>敦賀―今庄間に現存する、唯一のスイッチバック跡である。25/1000という単線の急勾配線路を列車が往来できるように、列車の折り返し線路と待避線路を併せ持っていた。</p> 	<p>C-1 国登録有形文化財</p> <p>41 山中ロックシェッド</p> <p>敦賀―今庄間にあり昭和28年につくられた国内初期のプレストレストコンクリート造の落石覆工である。峠越えをする蒸気機関車や線路を落石から守った遺構である。</p> 	<p>D-1</p> <p>42 大桐駅跡</p> <p>プラットフォーム跡が残る駅跡で、元々はスイッチバック式の大桐信号所であったが、地元住民の要望により、停車場に昇格した駅である。現在、地元区民によって設置されたD51形の動輪が展示されている。</p> 
<p>E-1</p> <p>43 今庄宿</p> <p>江戸時代の今庄は、旅人が京や江戸と北陸を行き来する際に必ず通る場所であったため、北陸の玄関口、宿場町として栄え、明治以降は鉄道交通の要所、基地としても栄えた。</p> 	<p>E-1 国登録有形文化財</p> <p>44 旅籠 若狭屋</p> <p>旅籠屋は本陣や脇本陣とは違い、一般旅行者を泊めて食事を提供する宿のこと。今庄宿では、暮末に55軒もの旅籠屋があり、そのなかでも若狭屋は大きな旅籠屋であった。現在は、地元NPO法人が管理し、まちづくり活動の拠点として活用している。</p> 	<p>E-1 県指定有形文化財</p> <p>45 京藤基五郎家</p> <p>今庄宿でひととき異彩を放つ家。江戸時代、酒造業を営む一方で、脇本陣にも指定された今庄宿有数の旧家。県内最古の町家。県内最古の町家が上り、外壁は全面塗籠するなど、当家の財力と強い防災意識がうかがえる。</p> 	<p>E-1 国登録有形文化財</p> <p>46 明治殿</p> <p>昭和7年に、田中と吉氏が、明治天皇が宿泊された本陣の居室を移築し、本陣跡に明治殿として建設された。また、その前庭を公徳園として整備し、憩いの場として提供された。</p> 	<p>E-1 国登録有形文化財</p> <p>47 昭和会館</p> <p>昭和5年に、田中と吉氏が私財を投じ、臨本陣跡に社会教育の拠点となる「昭和会館」を建設した。当時としては画期的な鉄筋コンクリート3階建ての建物。宿泊できる研修の場として多くの団体に利用され、その後は、今庄町役場に利用され、現在は公民館や地域交流の場として幅広く利用されている。</p> 	<p>E-1</p> <p>48 今庄駅給水塔・給炭台</p> <p>今庄駅構内に現存している遺構であり、今庄―敦賀間の峠越え前後に必要な木炭や水の補給に利用されていた。</p> 

各エリアまでの所要時間

<p>大阪</p> <p>名古屋</p> <p>約100分</p> <p>約60分</p>	<p>長浜</p> <p>敦賀</p> <p>約30分</p> <p>約20分</p>	<p>今庄</p> <p>金沢</p> <p>約80分</p> <p>約80分</p>
---	---	---

(お問い合わせ) 滋賀県 長浜市 産業観光部 観光振興課 TEL.0749-65-6521
福井県 敦賀市 産業経済部 観光振興課 TEL.0770-22-8128
福井県 南越前町 観光まちづくり課 TEL.0778-47-8002

福滋 県境 鉄道遺産 回廊

鉄道遺産でつながる3市町

滋賀県 長浜市 南越前町(今庄) 旧北陸線をつなぐ3つのエリアを巡る。

0km 1km 2km 3km 4km 5km



長 敦 南
浜 賀 越
前

記憶の旅へ

今も息づく、近代化遺産を巡る旅。

長浜市・敦賀市・南越前町近代化遺産マップ

長 敦 南
浜 賀 越
前

記憶の旅へ 観光モデルコース

(注意) 県道140号線 船にあり

ちよつと足をのほして

今庄宿	大桐駅跡	山中ロックシェッド	山中信号所跡	行き止まりトンネル	山中トンネル	伊良谷トンネル	芦谷トンネル	曲谷トンネル	第二観音寺トンネル	第一観音寺トンネル	首路地谷トンネル	鮎ヶ谷トンネル	葉原トンネル	榎曲トンネル	敦賀赤レンガ倉庫	敦賀鉄道資料館	小刀根トンネル	柳ヶ瀬トンネル	中ノ郷駅跡	長浜鉄道スクエア
約10分																	約15分	約8分	約40分	
G 国道366号線へ左折																	D 国道8号線へ右折	C 国道476号線へ左折	B 国道365号線へ右折	A 国道365号線へ右折

※コースの所要時間および距離の表記はあくまで目安です。

- 2 D51形793号蒸気機関車
- 3 扁額「萬世永頼」
- 4 扁額「永世無窮」
- 5 扁額「與國咸休」
- 6 扁額「功和子時」
- 7 扁額「徳垂後裔」
- 8 旧長浜駅29号分岐器ポイント部
- 9 慶雲館
- 10 北国街道安藤家
- 11 黒壁ガラス館